

寺報は無料、不要の方は一報下さい。

第185号

龍源寺報

2009.9.1

臨濟宗・妙心寺派	住職	松原茂樹
副住職	松原正哲	明樹
開栖	松原行	
正福寺住職	松原	
TEL	3451-1853	
FAX	3451-6094	

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)
Email: ryugenji@ryugenji.com URL: <http://www.ryugenji.com>



松原泰道・志ず追悼号

人の一生は、限りがありますが、まさか、一回しない、人生の終幕を、この七月に共に切って下ろすとは思いませんでした。

悲しい出来事ではありましたが、彦星・織り姫となって、天上から見下ろしているでしょう。生前のご交友、ご愛護に深い感謝の意を表します。別記のように、あわただしく「偲ぶ会」を考えています。

二〇〇九年九月一日

龍源寺住職・松原哲明

▼残暑のお見舞い申し上げます。

柳 緑 と言っても、本番の夏が暑くない

ので、残暑と言いましても今年は

花 紅 どうもびんと来ないかも知れませ

んね。季節が異常でしたが、龍源

寺および家族達の梅雨から夏にかけては異常
すぎました▼そもそも私の異常は五月の三十

一日から始まりました。土曜日です。この日

の朝、真っ黒な便が出ました。異常でしかあ

りません。内臓でかなりの出血が発生したの

でしょう▼月曜日にホームドクターに診察し

て貰いに行くと、内臓出血の疑いが強いから、

近くの大森日赤病院に手配したから、すぐに

行きなさい、と言われ、外來に行くと、胃潰

瘍の疑いがあるから、六月十二日に検査しよ

う、と言うことになりました▼しかし、潰瘍

は見つからず、家に帰りました。が、咳が激

しく、息苦しい。ホームドクターに電話した

ら、本日休診とか。そこで近くの古川橋病院

に駆け込んでレントゲン撮影すると、心臓の

下部に水がたまっている、と言うではありま

せんか。それが原因らしく咳が止まらないと

かの診断で、国際福祉大学三田病院に緊急入

院▼心臓の下部の水を無くさない。そこで

一日八百cc飲み、一五〇〇ccのおしっこを出
す作戦になりました。利尿剤の投入でした。

ですから一日中トイレに通いましたよ▼しか

し、水も咳も止まらない。もしかしたら心臓

に穴が空いているのではないかと所見が

て、その検査が始まりました。心臓に穴が空

いていました。二つ。手術して直したほうが

良いというのですが、腎臓を痛めて透析する

リスクがあるというので断念しました。いま

でも、穴が空いたままです▼七月七日、朝食

後に退院することに決まりました。その朝、

四時半に左胸が痛くなり、ひやっとしました。

心臓発作かと。そこに家内から電話が入って、

母の死を知らされたのです。母との別れはで

きませんでした。最後までお寺で共に過し

たので、お互いに悔いは残っておりません。

▼七月八日通夜、九日葬儀。十日龍源寺うら

ばん法要。十一日、十二日京都講演。十三日、

十四日講義、十五日法事、十六日再入院。大

腸の未検査を検査して異常なしで退院。それ

から連日うらばん法要に出頭▼七月二十七日、

父・前任職・泰道入院、二十八日危篤、二十

九日遷化。ひと月に父母が逝去したので、

一生に一回しかない人生の幕を二人は仲良く

下ろしてゆきました。亡くなる二日前まで講
演しておりました▼父の葬儀は本山式でした。

通夜と葬儀で会葬者は二千人弱。僧侶が三百

五十名。みんなが、一体どうなるのか、大混

乱を起すのではないかと心配していましたが、

これもなるようにしかありません。▼肅々と

事を運ぶようにみんなに御願いしました。部

内寺院の方々、檀家、信者の方々の親身のお

手伝いで何とか、二人を送りました。これで

我々夫婦の大役は終わりました。とりあえず、

私が九月上旬には隠居します▼二人の生前は、

本当に可愛がっていただき有難うございまし

た。通夜・葬儀の日に、きちんとご挨拶せず、

お許し下さい。また、おもてなしも出来ずに

失礼しました▼母の四十九日は内輪で済ませ

ました。父の四十九日も関係者で執り行いま

す。ご了承下さい。お彼岸に二人の読経をし

ました。私も任職三十五年近く勤めさせて

もらいました。ようやくバトンを渡せるよう

になりました▼別紙の通り「お別れ会」を催

します。おいで下さい。また徐々に経過をご

報告しましょう。今回はこれにて。(哲)



私の退院の翌日のことでした



遺影には献花が似合いました



葬送



別離



多勢のお坊さんに見守られ…



元気でしたが…